

環境共生資源学特論 I (2 単位)

担当者氏名 鈴木伸一

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

地球のみどりの植被といわれる植生は、動物を含めた全ての生物の生活基盤としてきわめて重要である。本特論ではこの「植生」を環境共生資源として取り上げ、生物の一員である人間と植生の関わりを通じて、現在そして今後望まれる環境共生社会の在り方について植生生態学の立場から考察したい。現代社会は球環境問題を誘発するに至っているが、その改善のための糸口が環境との共生にあるとすると、環境共生学専攻の目指す、「自然科学と社会科学および人文科学との融合による環境との共生」とは、まさに現在景観として展開されている植生の姿を素直に評価し、その背景にある人間活動の影響の検証と評価を通して、望むべき方向性を検討して行くことに他ならない。特論 I では、植生の持つ基本的側面について考察する。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

自然再生 環境保全林 生態学的植栽 郷土樹種
 潜在自然植生 明治神宮 自然林 植生調査

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	環境と生物 (第 1 週)	・ 主体 - 環境系、生物による環境の変化	◎本特論は基本的な植生生態学の知識や理念の習得を前提とするが、単なる知識にとどまらず、現在の環境問題や環境整備などの社会的な課題と関連させて考え、自身の専門分野とも関連させた応用学として有益に対応させてほしい。
2	植物群落の成立 (第 2~3 週)	・ 環境要因の相互作用と生物の相互関係、植物集団の秩序、生物多様性、	
3	環境と生態系 (第 4 週)	・ 生態系の構造と機能および発達	
4	生態系の発達と遷移 (第 5~6 週)	・ 植生の動態、土壌の発達、遷移系列、極相、偏向遷移と現存植生	
5	植物の分布 (第 7~9 週)	・ フロラと植生、植物区系、気候帯と植生帯、世界の植生、散布、動物との共生、生活形	
6	日本の植生 (第 10~11 週)	・ 植生の種類と類型、主な植物群落、自然植生、と代償植生、植物群落と立地	
7	植生と景観 (第 12~14 週)	・ 自然景観と文化景観、景観の主要な構成単位、と景観区分、日本の植生景観、エコトープ	
8	環境の把握および評価方法 (第 15 週)	・ 植生図、植生自然度図、立地図、植生の空間配分	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)
 植物と人間／宮脇昭／NHKブックス (1970 年)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)
 日本の植生／宮脇昭 (編)／学研 (2011 年) 日本植生誌 1~10 巻／宮脇昭 (編)／至文堂

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト)

課題レポート (100 点) により評価する。

◆オフィスアワー

毎週木曜日の午後に、研究室で質問、相談等を受け付ける。

◆その他受講上の注意事項

掲示した参考書以外にも多くの良書があるので授業の中で紹介する。問題意識を持ってそれらから情報を収集してほしい。